

華 国 鋒

プロレタリア階級独裁のもとでの
継続革命をあくまでもおしすすめよう

——『毛沢東選集』第五巻を学習して

プロレタリア階級独裁のもとでの
継続革命をあくまでもおしすすめよう

——『毛沢東選集』第五巻を学習して

華 国 鋒

外 文 出 版 社
北 京

**プロレタリア階級独裁のもとでの
継続革命をあくまでもおしすすめよう**

1977年 初版発行	定価 100 円
出版者	外 文 出 版 社 (北京阜成門外百万荘)
発行者	中 国 国 際 書 店 (北京 P. O. Box399)

編号:(日)1050-2360	1/2-J-1140P
	00020

プロレタリア階級独裁のもとの

継続革命をあくまでもおしすすめよう

——『毛沢東選集』第五巻を学習して

偉大な指導者であり教師である毛沢東主席は、わが党、わが軍、わが人民共和国の創設者であり、現代のもつとも偉大なマルクス・レーニン主義者である。半世紀あまりにわたる長いあいだ、毛主席はみずから中国革命を指導してきた。毛主席はマルクス・レーニン主義の普遍的真理と革命の具体的実践とを結びつけ、中国革命のへてきた各段階において、わが党のために唯一の正しい路線、方針、政策をさだめた。右と「左」のさまざまな日和見主義に反対する闘争のなかで、毛主席はマルクス・レーニン主義をうけつぎ、守り、発展させ

た。毛主席は中国の革命運動と現代の世界の革命運動の経験を総括し、マルクス・レーニン主義の哲学、政治経済学、科学的社会主義の各分野で卓越した貢献をし、マルクス・レーニン主義の理論的宝庫をこのうえなく豊かなものにした。

中国革命の道はけっして平坦な道ではなかった。われわれはその前進途上において、国内国外、党内党外の多くの敵にうちかち、われわれ自身の隊列内部のさまざまな誤った傾向を克服し、先人がかつてぶつかったことのない数多くの新しい問題を解決しなければならなかった。わが党が民主主義革命と社会主義革命のなかでつぎつぎにおさめた勝利は、その一つひとつが毛主席の指導のたまものであった。歴史が立証しているように、毛主席の旗じるしは、プロレタリア階級が広範な人民を指導して、団結してたたかい、勝利をかちとるための偉大な旗じるしである。

毛主席の在世中、われわれは毛主席の旗じるしのもとに団結し、勝利のうち

に闘いをすすめてきた。毛主席なきあと、毛主席の旗じるしに忠誠をつくすことは、われわれの革命事業の勝利をかちとる保証である。この点、われわれの同志は十分な認識をもたなければならない。われわれはかならず毛主席の旗じるしを永遠に高くかけ、断固としてこれを守り、われわれの革命事業をひきつづき毛沢東思想のみちびきのもとに、毛主席の革命路線にそって、勝利のうちに押しすすめるなければならない。

『毛沢東選集』第五巻は、中華人民共和国成立後の最初の八年間に、毛主席がわが党を指導して各分野でおしすすめた偉大な闘争の勝利の記録であり、その科学的な総括である。ゆらい、毛主席は思想上、理論上の問題にたいしては、きわめてきびしい、慎重な態度をとり、自分の著作はつねに一定期間の実践による試練をへたうえではじめて選集に収めるようにしてきた。一九六九年、毛主席は周恩来同志と康生同志に選集第五巻の編集の仕事をゆだねた。しかし、修正主義路線の妨害と破壊によつて、第五巻はずっと出版することがで

きなかった。こうした妨害と破壊は、まず林彪、陳伯達によるものであり、ここ数年は王洪文・張春橋・江青・姚文元「四人組」反党グループによるものであった。とりわけ毛主席逝去の前後、「四人組」は毛主席著作の編集、出版の指導権を奪いとり、選集第五巻と後続の諸巻の出版を妨害、破壊するために極力策動した。これは、かれらが毛主席の偉大な旗じるしをうち倒して、党と国家の権力さん奪、資本主義の復活という犯罪的な目的をとげようとしたその陰謀の一環をなすものであった。『毛沢東選集』第五巻が出版されたことは、わが党が「四人組」反党グループを粉碎した勝利の成果の一つである。

『毛沢東選集』第五巻をつらぬく根本思想は、マルクス主義の連続革命の原理を堅持し発展させ、プロレタリア階級が権力を奪取したあと、ただちに民主主義革命を社会主義革命に転化させ、プロレタリア階級独裁のもとで社会主義革命をひきつづきおしすすめていく、というものである。

民主主義革命が勝利をおさめたとき、中国は經濟面でひじょうに貧しく、立ちおかれており、総人口のなかでプロレタリア階級はごく少数しか占めておらず、農民が八〇パーセント以上を占めていた。このような大国で、民主主義革命がその勝利によつてただちに社会主義革命に転化しうるかどうか。この点については、国外でも国内でも、また党外でも党内でも、多くの人が疑いをもつか、あるいはまったく不可能なことだと考えていた。

マルクス・レーニン主義は、民主主義革命を最後までやりとげたなら、社会主義革命のとびらがひらかれる、と見ている。毛主席はこの原理を中国の具体的な条件に適用し、わが党をみちびいて、この革命的転化の実現に成功した。

全国的勝利の前夜、毛主席はすでに中国共産党第七期中央委員会第二回総会における報告のなかで、全国的勝利のあと、国内における主要な矛盾は「労働者階級とブルジョア階級との矛盾である」と指摘している。つまり、革命は停頓することなく社会主義革命に転化するというのである。毛主席の思想によれ

ば、民主主義革命の過程におけるプロレタリア階級の指導権は、革命が勝利をおさめたその日から、いささかもゆるぐことなく、プロレタリア階級の指導する国家権力に発展しなければならない。事実、われわれはこのように実行した。こうしてうち立てられたプロレタリア階級の指導する人民民主主義独裁は、実質的にはプロレタリア階級独裁である。われわれは民主主義革命のなかで官僚資本を没収したので、プロレタリア階級の指導する人民民主主義独裁は、最初から国の経済の大動脈をにぎる国营経済をもつことになった。これは社会主義的性質の経済である。

全国的勝利のあと、毛主席はわが党を指導して、三年の時間をかけて国民経済を回復させるとともに、この期間に広範な大衆を立ちあがらせて、土地改革、反革命鎮圧、抗米援朝という三大運動をおしすすめた。土地改革を完成した地区では、ただちにさまざまな形態の労働互助と生産協同化の組織に着手した。また、私営資本主義工商業にたいしては、国家資本主義の措置を実施しは

じめた。一九五二年、毛主席はみずから「三反」「五反」の闘争を指導し、当時、社会主義経済の指導をうけつけず、社会主義経済の破壊に狂奔していたブルジョア階級の違法活動に、大衆の力で、壊滅的な打撃をあたえた。この闘争の勝利は、私营資本主義工商業を改造して国家資本主義の軌道にのせる事業を大きく前進させた。

プロレタリア階級独裁の国家権力があつたし、また、社会主義的国营経済が国民経済全体のなかで指導的地位を占めていたので、わが党は土地改革の完成後、全国的な範囲で生産手段所有制の社会主義的改造に取りかかった。「資本主義的所有制をうち破って、これを社会主義の全人民的所有制に変え、個人的所有制をうち破って、これを社会主義の集団的所有制に変える」と毛主席がいったのは、このことである。当時、所有制の改造は、労働者階級とブルジョア階級との矛盾、社会主義の道と資本主義の道との矛盾を解決する中心的な問題であつた。毛主席はいちはやく、わが党のために過渡期における総路線をうち

出した。この総路線こそは、国の工業化を実現するとともに、農業、手工業、資本主義工商業の社会主義的改造を実現するためのものであった。

この総路線を実行するため、毛主席は全党をひきいて、経済戦線でも政治・思想戦線でも、ブルジョア階級と複雑な闘争をくりひろげた。観念論にたいする批判は、ブルジョア階級にたいする闘争の一つの重要な側面であった。毛主席は全党をひきいて、党内に侵入してくるブルジョア思想とたえず闘争し、劉少奇によって代表される、総路線から逸脱した右翼日和見主義を克服した。こうした日和見主義の主要な現われは、「新民主主義の社会秩序を確立する」というスローガンをうち出して、資本主義工商業にたいする社会主義的改造をおこなわず、国营経済の指導的地位をみずから放棄したこと、土地改革後ただちに互助・協同化運動をくりひろげる必要性と可能性を否定して、農村に両極分化が発生するのを放置したことなどである。その実質は、革命を停頓させて、中国に資本主義の道を歩ませることにあつた。

毛主席は最大の力をそいで農業の社会主義的改造を指導し、五億の農民がすみやかに社会主義の道を歩むようみちびいた。これは、きわめて偉大な世界的意義をもつ出来事である。農業の社会主義的改造が実現したため、土地改革を基礎とした労農同盟は、社会主義を基礎とした労農同盟に発展し、これによって、プロレタリア階級独裁はもつとも強大な基盤をもつことになった。資本主義工商業の社会主義国営経済への改造は、国家資本主義のさまざまな過渡的形態をつうじて実現された。毛主席は、農業の社会主義的改造と資本主義工商業の社会主義的改造というこの二つの事柄が相互につながり、相互に促進しあう関係をあざやかに解明し、実践のなかで、この二つの事柄をみごとに結びつけた。社会主義が農村の陣地を占領したため、国家は資本家が必要とする原料と市場をおさえ、また政治面でもブルジョア階級を孤立させることになった。こうして、かれらは社会主義的改造に従わないわけにはいかなかったのである。

生産手段所有制の社会主義的改造は、激烈な階級闘争をへて実現した、きわめて大きな変化である。毛主席の正しい指導によつて、この変化はこんなにも急速に進行したばかりでなく、改造の過程で生産力が破壊されるようなこともおこらず、農業は年々増産をおさめ、工商業はたえず発展し、社会主義の国营経済はますます強大になった。このため、生産手段所有制の改造が基本的に実現され、同時に、一九五三年にはじまった第一次五ヵ年計画の国民経済建設も大きな勝利をおさめることができた。

毛主席はわが党を指導して、経済の立ちおくれた農業国で、民主主義革命が勝利をおさめたのち、プロレタリア階級独裁をうちたて、社会主義革命に移るという経験を生みだし、社会主義的改造と社会主義建設を同時にすすめるという経験を生みだした。また、農業と手工業にたいする社会主義的改造と資本主義工商業にたいする社会主義的改造の面でも、多くの新しい経験を生みだしている。これらの経験にたいする毛主席の総括と概括は、マルクス主義の発展史

上、重要な理論的意義をもつものである。

一九五六年、わが国では、生産手段所有制の社会主義的改造が基本的になしとげられた。そのあと、社会主義社会には矛盾、階級、階級闘争がまだ存在するのかどうか、社会主義革命をまだつづけていくべきかどうか、また、それをどのようにすすめていくのか——これは中国革命が直面した新しい問題であった。これはまた、国際共産主義運動のなかで、長いあいだ正しい回答がえられなかった問題でもある。

この問題については、マルクス・レーニン主義の歴史的文献のなかから、できあいの回答を見つけることはできない。マルクスとエンゲルスは、科学的社会主義の学説とプロレタリア階級独裁の原理をうちたてた。だが、かれらはプロレタリア革命の勝利を経験しておらず、こうした問題はまだ具体的にはかれらの前に提起されていなかった。レーニンは、理論と実践の面で、マルクス主義のプロレタリア階級独裁の原理を発展させた。かれは、プロレタリア階級が

国家権力を奪取したあとも、まだするどい複雑な階級闘争が存在し、資本主義復活の危険性が存在するから、ひきつづきプロレタリア階級独裁を強化しなければならぬ、と指摘した。しかし、レーニンはあまりにも早く逝去したため、生産手段所有制の社会主義的改造がなしとげられるのをその目で見る事ができず、この問題をはっきりと具体的に解決することができなかった。スターリンは偉大なマルクス・レーニン主義者であり、レーニンの事業をうけつぎ、ソ連人民を指導して、社会主義的工業化と農業集団化をなしとげ、反ファシズム戦争の勝利をかちとつた。スターリンは、実際には、党内にもぐりこんだ反革命のブルジョア階級の代表的人物とつぎつぎに断固とした闘争をすすめた。しかし、スターリンは、理論的には、ソ連が農業集団化をなしとげたあと、プロレタリア階級とブルジョア階級との矛盾、社会主義の道と資本主義の道との矛盾が依然として存在することを認めようとしなかった。スターリンは長いあいだ、対立面の統一という唯物弁証法の観点で社会主義社会を見るので

なく、社会主義社会をただ一致があるだけで、矛盾のない一つの統一体とみなしていた。こうした思想の影響をうけて、国際共産主義運動のなかには、長いあいだ、一種の観点がひろく存在していた。それは、生産手段所有制の社会主義的改造がなしとげられたあとも、プロレタリア階級とブルジョア階級とのあいだの階級闘争が存在すること、こうした階級闘争はまた党内の路線闘争に反映し、資本主義復活の危険性がまだ存在することを認めない観点である。フルシチョフ裏切り者集団がソ連共産党と国家の指導権をのっとり、ソ連で資本主義を復活させたこの痛切な教訓は、プロレタリア階級独裁の歴史的経験をしんげんに総括し、この面の問題をあらためて考慮するというきびしい任務を、マルクス・レーニン主義者のまえに提起した。

わが党内のブルジョア階級の代理人である劉少奇、陳伯達は、所有制の社会主義的改造が基本的になしとげられたこの時期を利用して、またしても革命を停頓させようとたくらんだ。かれらは、ブルジョア階級はすでに消滅され、社

会主義と資本主義とのあいだのどちらが勝ち、どちらが負けるかの問題はすでに解決された、といった。かれらが階級闘争消滅論をさかんにとねえたのは、ほかでもなく、社会主義革命を解消するためであつた。もしもプロレタリア階級とその政党がこうした観点をうけいれるなら、その結果は、すでにかちつた革命の成果を失い、中国を資本主義の道に逆もどりさせるだけである。

毛主席は国外、国内の誤つた思想にかんがみ、徹底した唯物論のなにもをも恐れぬ気概をもつてマルクス主義の弁証法を運用し、国外、国内の正反両面にわたる経験をしめくり、国際共産主義運動の歴史上はじめて、プロレタリア階級独裁の歴史的運命にかかわるこの重要問題に科学的な回答をあたえ、プロレタリア階級独裁のもとでの継続革命という偉大な理論をうち立てた。一九六二年、毛主席はこの理論にもとづいて、社会主義の全歴史的段階における党の基本路線を定めた。一九六六年にはじまつたプロレタリア文化大革命の実践をつうじて、この理論はさらに充実した、豊かなものとなつた。『毛沢東選